

番号	39	平成28年度公共事業再評価調書				担当課名 街路整備課	
事業名	街路整備事業				事業主体	静岡県	
箇所名	都市計画道路 <small>いけだひいらぎせん しもながくぼ こうく</small> 池田柵線(下長窪工区)				関係市町村	長泉町	
事業採択年度	平成 14 年度	計画期間		平成14年度 ~ 平成32年度			
用地着手年度	平成 15 年度	工事着手年度		平成 21 年度			
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況	～H26年度	H27年度	H28年度見込	計	
	7,541	(百万円)	5,752	536	814	7,102	
事業概要	(1)事業目的						
	<p>本路線は、東駿河湾広域都市圏の東西幹線道路であるとともに、(都)片浜池田線及び(都)谷田幸原線と一体となって、新東名、東名、国道246号及び国道1号を接続し、同都市圏の市街地部の環状道路を形成する重要な都市計画道路である。</p> <p>当地域は、国道246号、県道沼津小山線及び県道三島裾野線など南北方向を縦断する道路は比較的整備されているが、JR御殿場線や黄瀬川により東西に地域が分断されているため、良好な市街地形成の骨格となる東西方向の幹線道路の整備が求められている。加えて、東名沼津IC、新東名長泉沼津IC、県が推進しているファルマバレープロジェクトの中心的存在である県立静岡がんセンター及びがんセンターに隣接する新拠点施設へのアクセス向上が急務となっている。</p> <p>このため、本路線の整備により、地域間交流の活性化、交通円滑化による産業活動の支援を図るとともに、生活道路に流入していた通過交通を転換させることにより、安全で快適な都市生活環境の確保を目的とする。</p>						
事業の必要性	(2)事業内容						
	<p>(都)南小林線から桃沢川と黄瀬川を渡河し、県道沼津小山線に至る区間の道路の新設 延 長：542m 道路幅員：25.0m、4車線、両側自転車歩行者道 (車道幅員3.25m×4、自歩道幅員4.5m×2)</p>						
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化						
	<p>本路線が通過する長泉町では、JR三島駅から首都圏への新幹線通勤圏という立地条件や子育て支援を推進する町の施策により、近年、人口増加や住宅地の公示価格の上昇などにより都市化が進んでいる。また、平成14年に開院した県立静岡がんセンターの外来患者数も年々増加傾向にあるほか、隣接する新拠点施設が平成28年9月に全面オープン予定である。</p> <p>このような中、道路整備の必要性が高まってきているが、当地域の道路網の整備は遅れており、さらに周辺の幹線道路から生活道路への通過車両の流入などにより、住民の安全に支障をきたしており、本路線の整備が急務となっている。</p>						
【視点2】	(2)事業の投資効果						
	<p>現時点(H28)の分析結果：B/C=1.11</p> <ul style="list-style-type: none"> 総便益(B) 96.15億円 (走行時間短縮便益73.53億円、走行経費減少便益17.18億円、交通事故減少便益5.44億円) 総費用(C) 86.21億円 (建設投資額 87.84億円、維持管理費 0.20億円、用地残存価値 -1.83億円) <p>その他の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街化の促進 本事業区間の開通により、沿道の土地利用が進み、都市としての賑わいや利便性が大いに増進することが見込まれる。 						
【視点3】	(3)事業の進捗状況						
	<p>事業費ベース：94.2% (H28末) 7,102百万円/7,541百万円 工事費ベース：88.2% (H28末)</p> <p>事業量ベース：供用延長 0.0% 0m/542m 用地面積ベース：100% (H28末)</p> <p>評価 継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	事業に必要な用地買収は全て完了しており、現在、桃沢川及び黄瀬川を渡る橋梁の工事に着手している。これに併せ、橋梁前後の区間の道路工事を進めており、平成32年度末に完成の見込みである。						
	評価 継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない						
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	道路土工等では建設発生土を他工事間で活用するなど、工事コストの削減を検討している。また、新技術・新工法の活用による省力化などによりコスト削減を図って行く。						
	対応方針(案)	(1)対応方針(案)					
<p>本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由</p> <p>主要幹線道路間を結ぶ重要な路線であり、地域間交流が進む本路線の整備により市街地内の移動が円滑になるとともに、通過交通の転換が図られ生活道路の安全性向上につながることから、機能的な都市活動と安全で快適な都市生活に資する街路事業である。</p> <p>また、用地買収は全て完了しており事業完了の目途も立ったことから、事業を継続し早期完成を図る。</p>							

都市計画道路 池田柵線(下長窪工区)

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成20年11月)

総括表

I) 総便益 B	96.15 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	86.21 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.11

I) 総便益の算出

①各種費用のH37^{※1}の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行経費 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計年間経費 (億円/年)
整備しなかった場合 A	1732.23	504.44	112.22	2348.89
整備した場合 B	1728.04	503.47	111.91	2343.42

便益 A-B	4.19 時間便益	0.97 走行便益	0.31 ^{※2} 事故減少便益	5.47
-----------	--------------	--------------	------------------------------	------

- ・「時間便益」: 道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」: 走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」: 道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(H33~H82)	73.53	17.18	5.44	96.15

II) 総費用

[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

建設費用 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
75.41	87.84	2.21	0.20	1.83	86.21

- ・「建設投資額」: 建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」: 整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」: 検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

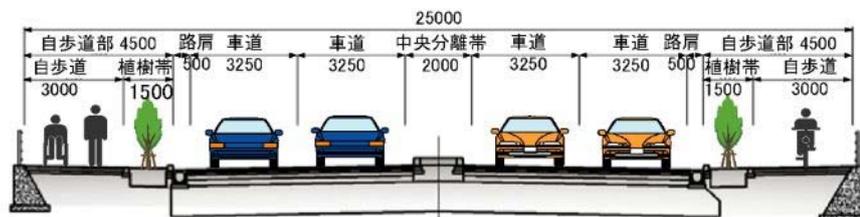
位置図



計画平面図・標準横断図

【事業概要】

- 計画延長 : 542m
- 道路幅員 : 25.0m
- 計画期間 : 平成14年度
～平成32年度
- 全体事業費: 7,541百万円



周辺の道路状況①

- JR御殿場線・黄瀬川による東西地域の分断
- 踏切や橋梁部がボトルネック
- 東西方向を結ぶ幹線道路が少ない



周辺の道路状況②

- 東西方向の幹線道路がないことから通過交通が生活道路へ流入し、周辺道路では慢性的な渋滞が発生



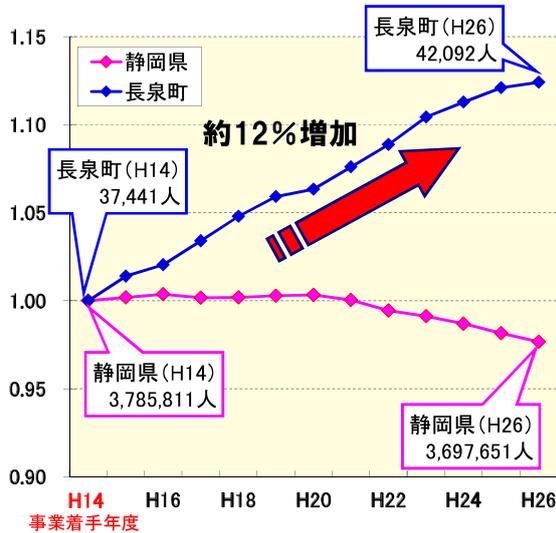
- 周辺の町道は、歩道が無い区間が多く、歩行者等の安全確保が課題



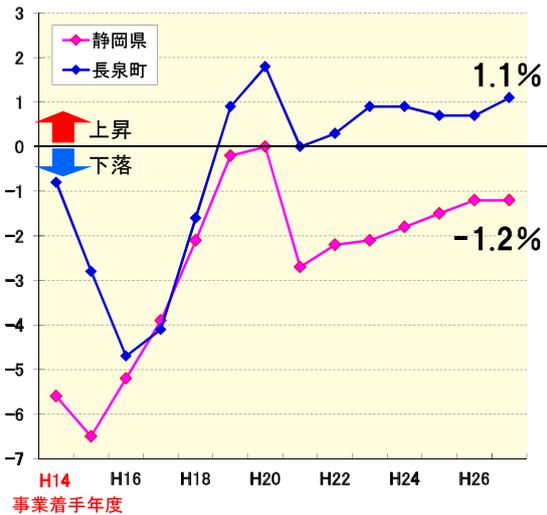
事業を巡る社会情勢の変化①

- 県人口推移が停滞する中、長泉町の人口は毎年上昇
- 県全体の地価が下落する中、長泉町の地価は9年連続上昇
(JR三島駅から首都圏への通勤圏という立地条件や町の子育て支援策による)

(1) 長泉町の人口推移
(H14を基準とした場合の人口推移)



(2) 住宅地 地価平均変動率
(地価調査・地価公示価格の平均)



事業を巡る社会情勢等の変化②

- ファルマバレー新拠点施設(静岡県医療健康産業研究開発センター)が、平成28年9月全面オープン予定
- H14年に開院した静岡がんセンターの外来患者数は年々増加



事業を巡る社会情勢の変化③

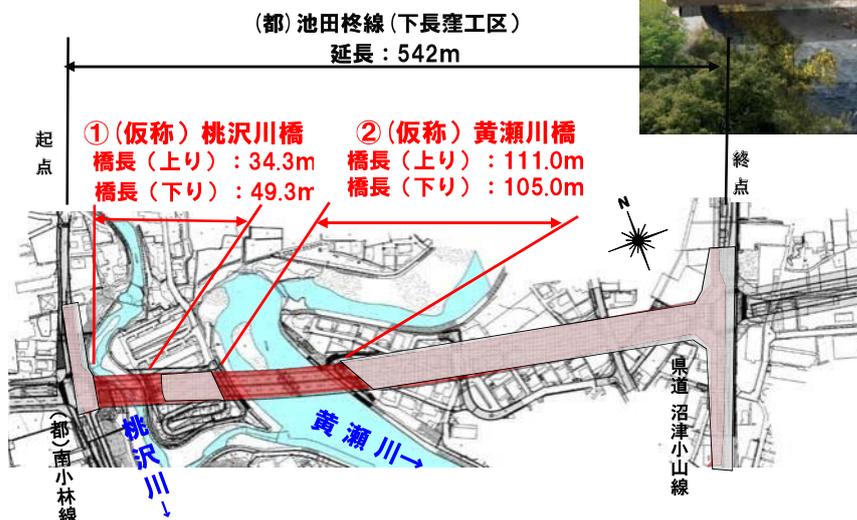
- プロジェクトの進展による雇用と宅地利用ニーズの増加
「内陸のフロンティア」を拓く取組みにより、「長泉沼津IC周辺物流関連産業等集積区域」における大型物流施設(イオン長泉プロセスセンター)が平成27年9月から稼働

長泉沼津IC周辺物流関連産業等集積区域



道路整備効果①

- 交通の円滑化
- 地域間交流の活性化
- 産業活動の支援

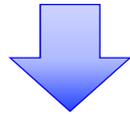


※東西交通の支障となっていた、桃沢川と黄瀬川を渡河する2橋の橋梁を新設

道路整備効果②

【課題】

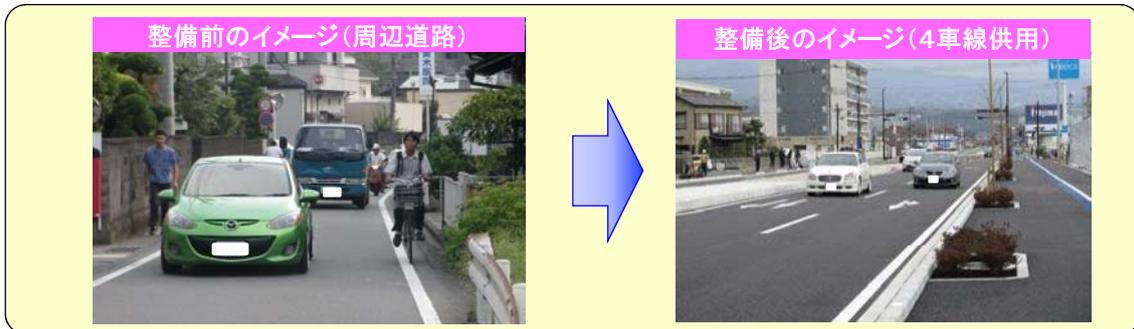
- 生活道路への通過交通の流入に伴う慢性的な渋滞が発生
- 生活空間での歩行者、自転車の安全確保



- ・バイパスの整備
- ・広幅員の自歩道整備

【通過交通の転換】

- 生活道路の安全性の向上
- 快適な自転車・歩行者空間の確保



道路整備効果③

- 街路整備により店舗や住宅が立地し、市街化が促進



隣接する開通済み
区間の状況



事業の投資効果

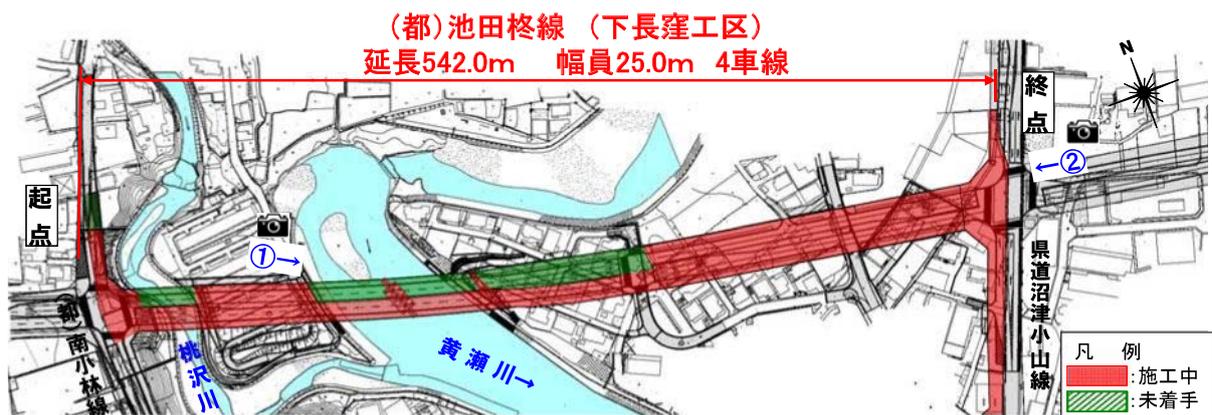
費用便益比: $B/C=1.11$ (1.27)

総便益(B)の現在価値	96.15億円(90.34)
走行時間短縮便益	73.53億円(68.31)
走行経費減少便益	17.18億円(16.68)
交通事故減少便益	5.44億円(5.36)
総費用(C)の現在価値	86.21億円(71.31)
建設投資額	87.84億円(72.90)
維持管理費	0.20億円(0.15)
用地残存価値	-1.83億円(-1.74)

注1) 総便益及び総費用の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しない

注2) 右側の()内の数値は前回再評価時(H23)の値を示す

事業の進捗状況(工事)



①西側区間の工事進捗状況



②東側区間の工事進捗状況



事業費ベース : 94.2% (平成28年度末見込み)

今後のスケジュール

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
前回再評価時	→						供用予定 (平成28年度末)
工事	→						供用予定 (平成32年度末)
			● 2車線	部分供用予定			

対応方針(案)

■ 主要幹線道路間を結ぶ重要な路線

- ・地域間交流の活性化
- ・市街地内の交通円滑化
- ・生活道路の安全性向上
- ・東名沼津IC、新東名長泉沼津IC、静岡がんセンター等拠点へのアクセス向上



機能的な都市活動と
安全で快適な都市生活に資する街路事業



事業を継続し早期完成を図る